

「ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール派遣参加報告書」

京都大学法学部1年 流合龍之介

ベトナムの道路は面白かった。信号が赤になったのに車やバイクは止まろうとしない。横断歩道が青になったのに、人が渡っているのに、やはり車やバイクは止まることを知らない。車やバイクからは、人をひいてでも進もうとする固い意志のようなものを感じた。一方の歩行者も、道路を譲るつもりはない。交通の流れの一瞬のスキについては、車を物ともせず道路を渡っていく。負けず劣らずの固い意志だ。しかし、この両者が対峙した時、不思議なことが起こる。歩行者との距離僅かで車やバイクはうまくかわしていく。歩行者も同様に車やバイクをかわす。その様はまるで川の流れのようだった。

ベトナムの人も面白かった。今回たくさん交流をさせていただいた、現地の日本について学ぶ学生さんたちは、とにかく自己主張が強かった。今回のプログラムの内容としては、ハノイ校の中でも、人文社会科学大学と外国語大学にお邪魔させていただき、日本についての授業をベトナムの学生と一緒に受けたり、京大生のみを対象としたベトナム語講義を受講したりしたが、中でもベトナムの学生と協力して、独自のテーマについてプレゼンする合同発表が印象に残っている。合同発表のテーマについて話しているとき、僕たちが日本で考えていたものに対してははっきりと意見をぶつけてくる。そして、現地の学生さんがしたい内容を臆さずに話す。しかし、こちらの考えは尊重してくれる。他にも、ホテルの人は、朝食会場で毎日目玉焼きとフォーを薦めてくるが、断っても嫌な顔一つせず、逆に欲しいという嬉しそうな笑顔を見せる。自分の意志は固持しつつも相手の思いに柔軟に対応するその姿は、道路同様川の流れを彷彿させた。

ベトナムでは、水をとても大切にしている。農業が盛んであった昔に建てられた建物の屋根には、水を司る龍を模した置物があり、その龍は、ベトナム四霊獣の筆頭とされるほどである。また、ベトナム語で国を表す“nước”には、別に水の意味があることから、水を大切にしていることがわかる。

この短期留学を終えた今、自分以外の方が何を思っているのか理解できるようになりたいという当初の目的を果たすために、あえてベトナム人をひとくくりにして言い表すとしたら、彼らは水のような存在である。日本人に多くみられる、他人からの視線に臆する様子も、自分の考えを否定されて過剰に気に留める様子も、彼らからはあまり感じられなかった。どちらがいいということではなく、ただ水のように生きるベトナム人に感動し、それを踏まえて彼らと触れ合い、相手の考えに耳を傾けられるようになったこの2週間に、ちょっとした達成感を抱いている。

今後は、もちろんハノイにもう一度行きたいと思っているが、ハノイ以外の都市やベトナム以外の国にも目を向け、様々な人の考え方に触れてみたいとも思っている。法学部では学べないことをいろいろ吸収していきたい。

最後に、この短期留学にあたり、プログラムを企画、実施して下さった京都大学とベトナム国家大学ハノイ校の方々、現地で様々なところへ連れて行ってくれ、合同発表に協力してくれた学生の方々、海外渡航を許してくれた家族、そして2週間一緒に過ごしてくれた京大生の方々に感謝の気持ちを示して、報告書の締めとする。